

# みんなを病気から守ってきた下水道

## 下水道の歴史



### 世界

- **紀元前2000年頃**: 世界でも古い下水道は、古代インドのモヘンジョ・ダロ。
- **1350年頃**: ヨーロッパでペストが大流行。全人口の4分の1以上の約2500万人が死亡したといわれる。
- **1740年**: パリ(フランス)に下水道が完成。
- **19世紀**: 世界各地でコレラが流行。
- **1914年**: 〈活性汚泥法〉の最初の近代処理場がイギリスに完成。

※活性汚泥法とは微生物が下水の小さな汚れを食べることを活用して、水をきれいにする方法。

### 日本

- **1583年**: 大坂城の城下町に下水道ができる。
- **1879年**: コレラが大流行。全国で約16万人が死亡した。
- **1884年**: 東京(神田)に近代下水道ができる。
- **1922年**: 日本で最初の近代下水処理場が、東京にできる。(三河島汚水処分場)。
- **1930年**: 日本初の活性汚泥法による処理が、名古屋で始まる。



日本でも百五十年ほど前にコレラが大流行



多くの人々が亡くなり、かんおけが火葬しきれずに山積みになっているようです。

## 不衛生だった中世ヨーロッパ

人口が増えた、中世ヨーロッパの都市では、し尿(おしっこ、うんち)の処理に困り、道路や庭に捨てていました。そのため、ペストなどの病気が大流行し、多くの人々が亡くなりました。19世紀になると、さらに都市に人口が集中し、世界各地でコレラが流行したため、ヨーロッパ各国やアメリカなどでは、下水道がつけられました。

日本初の近代下水道は137年前につくられ、今も使われています。(東京・神田)

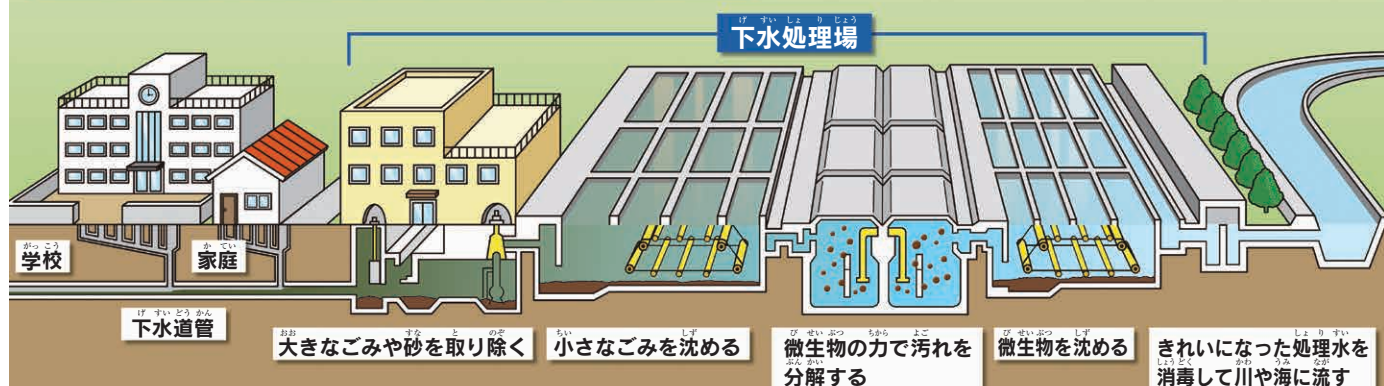


日本では、低地にたまった汚水が雨で街に広がり、明治時代にはコレラが大流行して、16万人もの人々が亡くなりました。東京等ではその汚水を処理するために、下水道をつくり始めましたが、広げるには長い時間とお金がかかりました。(50年前の普及率は16%)  
 今では全国の80%の人が下水道を使い、安全で快適に暮らせます。



日本で初めてつくられた近代下水処理場、旧三河島汚水処分場。レンガ造りの建物は国の重要文化財です。

## 汚れた水が下水処理場できれいになるまで



下水道は、街の衛生環境を保つ大切な役割を果たしています。もし、下水道がなかったらトイレが使えないので、街は不衛生になり感染症が流行して、川や海が汚れます。私たちが快適に生活できるのは、下水道のおかげです。

## これからの下水道

下水を調べて、新型コロナウイルスの流行を早く知る研究もされています。



写真提供: 東京都下水道局